

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	西東京市田無町六丁目 5 番 28 号
園名	ポピンズナーサリースクール西東京

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

音

<テーマの設定理由>

当園の教育方針に則り、雨音に対する子どもたちの関心をきっかけに、音について極限まで探究するテーマ設定をした。

### 2. 活動スケジュール

7月 テーマ決め  
8月 初回打ち合わせ  
9月 「DJ と音遊び」  
二回目に向けて、内容、スケジュールの確認  
10月 二回目の講師との打ち合わせ  
11月 「音のサイエンス」  
12月 三回目に向けて、内容、スケジュールの確認  
1月 三回目の講師と打ち合わせ  
2月 「音を表現する」

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

DJ を招聘し、コントローラーやサンプリングアプリを用意し、DJ ごっこに必要な環境、その他音についての制作なども視野に入れて子どもたちの関心に応じて柔軟に対応した

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

音ってなに？の問いからまずは音に親しむことから始まった。

サンプラーで玩具から出た音や自分の声を録音してなじみのある音楽に載せてそれらの音を出して遊んだ。次第に子どもたちは、楽器を手に取りDJが流す音楽や録音した音に合わせて自由に身体を動かしたり、鳴らして自分なりの表現をしていた。

音は振動であることを知る。音叉で音を聞いてみる。糸でんわを使って、音が振動で伝わっていることを体験する。

風船でんわで音は空気の中を伝わっていくことを知る。塩に向かって声を出して、声紋ができるところを見る。

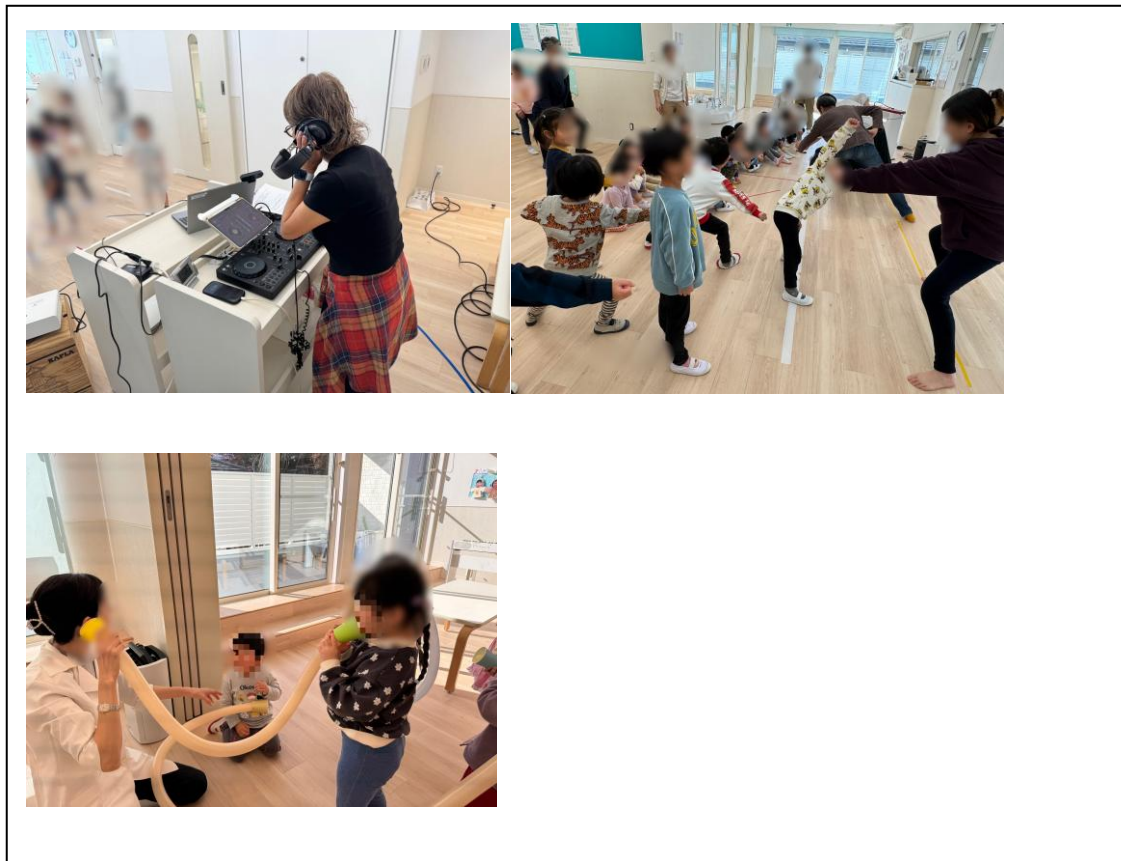
音楽と相撲を合わせ、自由な発想で表現した言葉に合わせて相撲甚句に組み込みながら相撲の動きを取り入れながらも自由に言葉での表現、動きを表現した。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

最初は何を楽しんだらよいか分からない様子であったが、自分の声や鳴らした音がスピーカーから流れてくると笑顔が見られた。最後は、思い思いに身体を動かして音、音楽に身体をゆだねているようであった。

音叉の時は、不思議そうな表情で見えていたが、糸でんわで友だちの声が聞こえたときには、驚きの表情になっていた。風船でんわでは、風船を色々な形に曲げても伝わってくることから、色々な形に曲げて行っていた。

最初は戸惑っていたが、見せてもらう相撲の動きや相撲甚句に耳を傾けて、その世界観に入っていた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

まずは音、音楽に親しんでほしいという意図があった。最初は何をしていいか分からず戸惑いの姿が多かったが、自分の声がスピーカーから流れてきたり、自由に音を出すことを次第に楽しむ姿が見られた。

最初は後ろのほうで見ていた子もいたが、最後には、自由に楽器を鳴らし、身体を動かし自分なりの音楽を楽しむ表現をしていた。

どのように表現するかを指示したわけでもない中で、自然発生的にその姿が見られたことで子どもの内なる表現を引き出せたように思う。

音叉は耳に伝わってくる音を集中して聞いていた。音が震えて伝わっていることがなんとなくでもわかった感じがする。音叉をテーブルに当てると、テーブルからじんわり音がして不思議そうな表情をしていた。塩に向かって声紋をとる取り組みでは、自分たちで音の高低をつけて発見していた。

聞きなれない相撲甚句に戸惑いがあった。四股を踏んだことのない子も多く、戸惑っていた。慣れない世界観に時間がかかった子もいたが相撲的な動きに自分なりの動きや声を合わせてその場で表現していた。